

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104997		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデングループホーム南山手	壱番館	
所在地	長崎市小曾根町1-33(マルタヤ南山手クラブ1階)		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症介護研究・研修センターから講師を招き、定期的に会社全体でセンター方式の拠点別研修やリーダー研修、新人研修をおこなっており、スタッフの育成も行っている。センター方式を活用しスタッフ一人一人が利用者様のその人らしさを考え認知症ケアに取り組んでいる。</p> <p>・施設が長崎港に面しており、長崎港への大型客船入港や、花火大会などを特等席で観覧する事ができる。近隣にグラバー園もあり、散歩を行う際も、景色や雰囲気がとてもいい町並みを堪能することができる</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念の一つである「その人らしく」を具現化する手がかりとして、入居時に、家族が基本情報を記入する取組がある。センター方式の24時間シートを活用し、利用者の言動を書き留め、職員の考察を丁寧に行い、個別の介護計画書作成に繋いでいる。新型コロナ禍の制限下、中学生の職場体験を受け入れたり、地域の高齢者の代わりに神社やクリスマスの飾りつけを職員が担っている。災害時の避難場所にとの要請があっていることから、地域の信頼を得ていることが窺える。運営推進会議は、構成員以外の家族にも全員に議事録を送付し、輪番制にて感想を募る工夫を行っている。職員のストレスチェック後のフォロー体制や新人を含む職員研修は、法人全体で充実しており、育児休暇取得や資格取得の祝い金等、働きやすい職場環境となっている。利用者はリビングで新聞を読み、鏡の前で髭を剃り、仲よし同志でおしゃべりを楽しんでいる。入浴支援では毎回湯を張り替えており、基本的な生活が快適に継続できており、利用者の穏やかな笑顔の様子から、理念の具現化が窺えるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	管理者と職員は毎日の理念を復唱し、基本理念である「寄り添うケア、なじみの関係、その人らしくさりげなく出来る事はしてもらう」を念頭にケアを行っている。	管理者と職員は、毎朝の理念唱和に加え、法人の安全心得を輪番で復唱し、常に基本の手順励行を意識付けしている。新人職員は、入社時の説明とOJT形式にて教育を受けている。利用者に寄り添い、心を読み解き、個人に適した個別ケアを行うことで、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや、えびす神社祭り、防災訓練などにも参加している。地域の郵便局にも、ご利用者と出掛けたりしている。グループホームの防災訓練にも地域の方に見学に来てもらい意見を頂いている。	地域の防災訓練や教養講座への参加等は、新型コロナウイルスのため中止しているが、中学生の職場体験は、抗原検査を施し受入れている。また、地域の神社の祭りやクリスマスの飾りつけを職員が手伝っている。ホームを地域住民の避難場所として提供してほしいという要請もあがっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、感染防止の為。地域の行事や教養講座に参加できていないが、感染防止を行いながら、地鎮祭に参加し、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状、状況の報告サービスの実際の報告をし、意見等あれば参考にさせて頂く。	コロナ感染を防ぐ為、書面会議で行い、年度末までに規程の6回を終える予定である。ホームの取組や利用者の近況報告を郵送し、玄関先の面会時や電話にて意見を聴取している。防犯面のアドバイス等の意見は議事録に記し、再度構成員以外の家族にも全員に議事録を送付し、輪番制にて感想を募る工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。困りごとや、相談事については、すこやか支援課等に、相談する様にしている。運営推進会議でのすこやか支援課や地域包括支援センター担当者様との意見交換などを行い協力関係を築くようにしている。	介護相談員受入は、新型コロナウイルスの為中止している。グループホーム連絡協議会主催の研修に、職員が参加している。書類の手続き等は、管理者が市担当課を訪問し行う他、ホームの近況は、運営推進会議事録や電話で担当者との意見交換する等、行政とは協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという事を、代表者、スタッフも理解しており、拘束を行う前に、出来る事を検討している。年に4回の身体拘束委員会の開催と、年に1回の身体拘束の研修を必ず行っている。	指針を基に年2回の研修と、年4回の委員会を開催している。身体拘束を行っていない旨を確認し、記録に残している。職員の不適切な言動には管理者から注意喚起があっている。法人で職員にストレスチェックを実施後、結果をフィードバックし、産業医のフォロー体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で時間をとり、勉強会も、行っている。虐待は絶対にあってはならない事、職員全員が認識しており、見過ごされる事が無い様に、注意を払っている。年に1回虐待の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については、研修会等で学ぶ機会もあり、施設での勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、改定時の際には、家族に充分説明を行い、契約書等にサイン、捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時には、意見、要望を聞く様にしている。お聞きした意見、要望はスタッフ全員で共有し改善できる点はしている。ご意見箱も設置しており御家族の意見、要望を把握できるようにしている。	新型コロナ禍の現在は、玄関先で面会が可能であり、家族の来訪時に、要望を聞き取っている。面会禁止の際には、管理者が直接家族へ一人ひとりに連絡を取り、理解を得る努力を行っている。毎月便りを発行し、全員の写真を家族に送付している。ただし、利用者一人ひとりの暮らしが伝わらず、家族は不安を感じている。	利用者一人ひとりのホームでの生活をより詳しく家族へ伝える方法を、職員間で検討し、家族の安心に繋げていくよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はいつでも意見や提案が、出来る様にしている。その他、月1回のスタッフミーティングでも聞く様にしている。年に一回職場懇談会も行っておりスタッフの意見や要望を聞き入れる場を設けている。	日頃から、新人、ベテランを問わず、意見や要望が出ており、電化製品の買換えの予定がある。職員は、年度始めに自己評価を行い、目標を立て、年度終わりに振り返り、次年度に繋げる仕組みがあり、PDCAサイクルが機能している。希望休は、月単位でとれており、資格取得時には、法人のバックアップがあり、働きやすい労働環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員全員に職場と仕事の状況確認書を書いてもらい、面談を行い、要望を聞き、職場環境条件の整備に努めている。希望休なども、可能な限り要望を受け入れるシフト作りを行っている。希望休なども可能な限り要望を受け入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修には、出来るだけ参加している。社内研修も充実している。新人に対しては、受け入れ時の研修はもちろん、実技は先輩スタッフに付いて実習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートであるが、グループホーム連絡協議会で他の事業所との交流を行ったり、社内では、他支店との社内研修を行ったり、情報交換、交流する機会を作ってサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに本人が困っている事、不安な事を把握し、コミュニケーションの中で素早く察知し共感し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報の中に、家族の困りごと。、不安なども記入して頂いた上で、御家族の要望に耳を傾け関係づくりに努めている。ホームでの家族のケアの方針を家族に説明し、ご家族と共に、本人のここでの生活を援助する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族に、ここでの生活についての、要望をお聞きし、最初に支援しなければいけない事を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にお手伝いして頂ける事は、一緒にして頂き、ここで暮らしている一員として、私達も助けられているという、支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての一番を第一に考え、家族の面会、外出などの支援などをお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、外出ができない為、なじみの場所などに外出することができないが、ご家族に連絡して、面会に来ていただくなど行っている。	新型コロナ禍の現在は、来訪者は以前と比べて減っているものの、家族とは玄関先での面会が可能となっている。手紙でコミュニケーションを図っている利用者や携帯電話を持っている人もいる。知人が年賀状を持って来訪した例もある。電話を掛けたいという要望があれば、取次ぎ、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまくコミュニケーションが取れない場合は、スタッフが間に入り、関わり合いがもてる様支援している。ソファ席など関係性を考慮して座席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、介護相談があれば、相談にのり、支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に以前の暮らしを、利用者、ご家族にお聞きし、希望意向の把握を行うことと、基本情報シートへの記入により、利用者にとってより良い暮らしの支援に努めている。定期的に、アセスメントも更新している。	入居時に、家族に基本情報シートの記入を依頼し、生活歴等を把握している。意向の把握が困難な場合は、家族へ尋ねることもある。起床の時間は自由であり、その日着る服は、利用者が選ぶよう支援している。リビングで、新聞を読んだり、パズルを楽しんだり、髭を剃っている利用者の姿に利用者本位の支援を行っていることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にお聞きしたり、センター方式のシートに記入をお願いしたり、利用者とのコミュニケーションの中から、生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使うことによって、一日の過ごし方や心身状態をグラフによって表し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際は、必ず現在の状態の報告を行い、シートに記入した利用者本人の言葉や言動を元に、カンファレンスを行い、利用者に応じた、介護計画書を作成している。	入居時、本人・家族からの基本情報をもとに、暫定プランを作成し3ヶ月の後、本プランへ移行している。センター方式、24時間シートは、利用者の言動と職員による考察が詳細であり、職員によるカンファレンス、モニタリングを経て、個別の介護計画書作成に繋げている。家族の意見は面会時や電話で尋ね、了解のもと実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D4シートをケース記録として使用している為、一つの行動の意味や気づきを考えながらシートに記入しており、記入した内容をケアカンファレンスや毎日の見直しで共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くに家族がいらっしゃる方などは、家族に変わって出来る限りの対応をし、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍である為、現在は、地域資源の活用を行っていない部分があるが、コロナ禍になる前は、つばき荘教養講座などの参加や、地域の理容室の活用、カトリックの方には、教会へのミサなどに参加して頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	紹介する主治医が数名おり、ご家族や利用者の意思と希望を尊重して頂ける、主治医をご紹介し、事業所、家族、かかりつけ医の関係を築けるよう支援している。	入居時に4名の協力医を紹介し、本人・家族の希望に沿い、往診等の医療体制を整えている。通院支援は基本は家族であるが、職員も柔軟に対応しており、受診結果は、双方で報告している。職員は、日誌や送りで医療面の情報を看護師と共有している。夜間緊急時は主治医の指示で、適切な医療を受けられるよう整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などにて、看護師との医療的な部分の情報の共有を行っており、医学的な部分は、看護師との、相談により支援を行っている。医者の往診日には看護師も一緒に往診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ソーシャルワーカー、看護師との情報交換や、週一回の面会やリハビリの様子を見学に行ったりし、早期に退院に向けての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	入居時に重度化の対応に係る指針を基に、家族に説明し同意書を得ている。体調変化に伴う本人・家族の心の揺らぎに寄り添い、主治医や看護師を交え、都度確認し記録に残している。今年度は1例、家族は防護服を着用し看取っている。職員は振り返りや研修を行い、本人・家族にとって悔いのない最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習については、全スタッフが講習を受けており、救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認出来る場所に配置してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、公民館への誘導を行う事も、年間2回の避難訓練を通して、スタッフ全員に知らせている。月一回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。	消防署や設備会社立会の総合火災訓練を年2回、夜間想定で実施し、毎月、新人職員を中心に全員で、初期消火や通報、誘導等の自主火災訓練を繰返し実施し、訓練後の振り返りを行っている。今年度、消防署とも相談し、自然災害時の避難基準を新たに定め、マニュアルを作成している。各居室には、ヘルメットと防災袋を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳を持ち、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない、言葉かけを行っている。トイレのパット類の収納は、プライバシーを損なわない様、名前をそのまま書かず、イニシャルで書き、誰のパットかわかるようにしている。	利用者の呼び方は、苗字にさん付けとしている。支援を行う際には必ず言葉掛けし、利用者を尊重した対応を行っている。申し送りは、部屋番号で行い、メモはシュレッターで処理し、個人情報の取り扱いに配慮している。職員は、入退社時に守秘義務の誓約書を提出し、利用者の写真の使用は、家族から同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも利用者の思いや希望を聞くようにしている。選択してもらえるような、働きかけをしている。本人の思いや希望を言い表せない利用者様には、センター方式のD4シートを活用し、本人様の訴えを行動や動きなどで考え、支援できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間の時間の中で、希望に沿ってのケアプランを作っている。利用者一人ひとりのペースに合わせて過して頂けるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回～2か月に1回、訪問美容室に来て頂き、ヘアカラーやその人らしいおしゃれを支援している。洋服を選ぶ際も、ご自分で選ぶことができる利用者様には、一緒に服を選んで頂くなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備ができる利用者様には、もやしの根とりなどを行って頂いている。スタッフと一緒に下膳など出来る事はして頂いている。ご本人が苦手な食事が献立に入っている場合は、個別で好きな食べ物にメニューを変更し、食事を提供している。	職員が献立を立て、手作りである。利用者の状況により、おかゆ、きざみ食、とろみ食に対応している。アレルギーや苦手な食材も個別に把握し、代替食を提供している。誕生日は、利用者の好きな物を聞き取って、茶碗蒸し、ちらし寿司、皿うどん等で祝っている。利用者はもやしの根切りやお盆拭き等できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、一日を通して、確保できるようにしている。一人一人の状態に合わせてため、トロミ、刻み色、お粥、ミキサー食、ムース食を提供している。在宅で毎日食べられていた食べ物なども、個別で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは声掛けにて、行って頂いています。変化があった場合は、歯科医に、往診してもらったり、家族の方にて、かかりつけ医に受診に行かれています。口腔ケア研修もインターネットでの研修を行っている、施設での勉強会も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事により、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が増えるよう排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本としており、ポータブルトイレは、夜間のみを使用としている。それぞれの排泄チェック表をチェックし、早めの声掛けを行っており、結果としてパッドの使用枚数が減った例がある。介護度の高い利用者に対しては、立ち位置に注意し、羞恥心への配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量にも気をつけて、食物繊維を多く含む献立を考えたり、毎日の体操で腹筋を使う工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を行っているが、毎日入浴をされたい方は、毎日入られたり、午前中、午後、希望に応じて対応し、個々にそった支援を行っている。	毎日入浴の準備をしている。午前、午後とも本人の希望に沿っており、週に2、3回の入浴である。湯は、その都度入れ替えている。また機械浴があり、介護度の高い利用者も浴槽に浸かることができている。端午の節句には、菖蒲を入れた足湯で季節を感じている。入浴の時間は、職員と昔話をし、リラックスできるひとときとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室でくつろいで頂いたり、消灯時間は、以前の生活と変わらない様に利用者が決めている。日中から安心して、落ち着いた生活をして頂き、そのまま夜につなげ安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋により、名前、目的、副作用をいつでも確認できる場所に保管しているので、必ず確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に応じて役割を持って頂き、生活歴や現在できることから楽しみ事を探し、気分転換を図ってもらえるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの流行により、外出ができない日々が続いている為、ベランダでの食事を行い、外の空気や景色を見て楽しみながら、食事を行って頂いている。	新型コロナ禍のため、外出の支援ができない状況である。利用者の気分転換を図り、港を一望できるベランダに飾り付けを施し、食事会を企画している。また季節感を感じることができるよう、リビングの飾り付けに工夫を凝らしている。収束後は、近隣のレストランに外食に出掛けたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたいとの訴えがあれば、御家族等に電話を掛けて頂いている。手紙も本人様のご希望があれば、ご家族やご本人に書いて頂き、手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花を玄関先に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。	港を一望できるリビングは、穏やかな陽光が注ぎ開放感がある。ピアノや木製の家具を配し、落ち着いた雰囲気である。仲良く肩を寄せておしゃべりを楽しむ利用者の姿に、自宅の延長としての生活ぶりが確認できる。季節毎の飾付の前で、職員が利用者の笑顔の記念写真を撮っている。清掃や空調管理で清潔な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方ご利用者同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。なるだけ、席替えを行わないようにして、自分のなじみの場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。	身体状況に配慮し、理学療法士の助言のもと、家具を配置している居室がある。仏壇や家具、好みの洋服や化粧品等馴染みの物を持ち込んでいる。家族や本人のスナップ写真を飾り温かい雰囲気である。防災袋やヘルメットを個々に準備し災害に備えている。職員は清掃や空調管理を行い、本人が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事と出来ないことを評価して、できる部分はご自分で行って頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、生活して頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104997		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデングループホーム南山手	貳番館	
所在地	長崎市小曾根町1-33(マルタヤ南山手クラブ1階)		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症介護研究・研修センターから講師を招き、定期的に会社全体でセンター方式の拠点別研修やリーダー研修、新人研修をおこなっており、スタッフの育成も行っている。センター方式を活用しスタッフ一人一人が利用者様のその人らしさを考え認知症ケアに取り組んでいる。</p> <p>・施設が長崎港に面しており、長崎港への大型客船入港や、花火大会などを特等席で観覧する事ができる。近隣にグラバー園もあり、散歩を行う際も、景色や雰囲気がとてもいい町並みを堪能することができる</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は毎日の理念を復唱し、基本理念である「寄り添うケア、なじみの関係、その人らしくさりげなく出来る事はしてもらう」を念頭にケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや、えびす神社祭り、防災訓練などにも参加している。地域の郵便局にも、ご利用者と出掛けたりしている。グループホームの防災訓練にも地域の方に見学に来てもらい意見を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、感染防止の為。地域の行事や教養講座に参加できていないが、感染防止を行いながら、地鎮祭に参加し、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状、状況の報告サービスの実際の報告をし、意見等あれば参考にさせて頂く。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。困りごとや、相談事については、すこやか支援課等に、相談する様にしている。運営推進会議でのすこやか支援課や地域包括支援センター担当者様との意見交換などを行い協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという事を、代表者、スタッフも理解しており、拘束を行う前に、出来る事を検討している。年に4回の身体拘束委員会の開催と、年に1回の身体拘束の研修を必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で時間をとり、勉強会も、行っている。虐待は絶対にあってはならない事、職員全員が認識しており、見過ごされる事が無い様に、注意を払っている。年に1回虐待の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度については、研修会等で学ぶ機会もあり、施設での勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、改定時の際には、家族に充分説明を行い、契約書等にサイン、捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時には、意見、要望を聞く様にしている。お聞きした意見、要望はスタッフ全員で共有し改善できる点はしている。ご意見箱も設置しており御家族の意見、要望を把握できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はいつでも意見や提案が、出来る様にしている。その他、月1回のスタッフミーティングでも聞く様にしている。年に一回職場懇談会も行っておりスタッフの意見や要望を聞き入れる場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに、職員全員に職場と仕事の状況確認書を書いてもらい、面談を行い、要望を聞き、職場環境条件の整備に努めている。希望休なども、可能な限り要望を受け入れるシフト作りを行っている。希望休なども可能な限り要望を受け入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修には、出来るだけ参加している。社内研修も充実している。新人に対しては、受け入れ時の研修はもちろん、実技は先輩スタッフに付いて実習している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモートであるが、グループホーム連絡協議会で他の事業所との交流を行ったり、社内では、他支店との社内研修を行ったり、情報交換、交流する機会を作ってサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報をもとに本人が困っている事、不安な事を把握し、コミュニケーションの中で素早く察知し共感し、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報の中に、家族の困りごと、不安なども記入して頂いた上で、御家族の要望に耳を傾け関係づくりに努めている。ホームでの家族のケアの方針を家族に説明し、ご家族と共に、本人のここでの生活を援助する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族に、ここでの生活についての、要望をお聞きし、最初に支援しなければいけない事を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にお手伝いして頂ける事は、一緒にして頂き、ここで暮らしている一員として、私達も助けられているという、支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとっての一番を第一に考え、家族の面会、外出などの支援などをお願いし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、外出ができない為、なじみの場所などに外出することができないが、ご家族に連絡して、面会に来ていただくなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまくコミュニケーションが取れない場合は、スタッフが間に入り、関わり合いがもてる様支援している。ソファ席など関係性を考慮して座席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、介護相談があれば、相談にのり、支援を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に以前の暮らしを、利用者、ご家族にお聞きし、希望意向の把握を行うことと、基本情報シートへの記入により、利用者にとってより良い暮らしの支援に努めている。定期的に、アセスメントも更新している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にお聞きしたり、センター方式のシートに記入をお願いしたり、利用者とのコミュニケーションの中から、生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを使うことによって、一日の過ごし方や心身状態をグラフによって表し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際は、必ず現在の状態の報告を行い、シートに記入した利用者本人の言葉や言動を元に、カンファレンスを行い、利用者に応じた、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D4シートをケース記録として使用している為、一つの行動の意味や気づきを考えながらシートに記入しており、記入した内容をケアカンファレンスや毎日の見直しで共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くに家族がいらっしゃらない方などは、家族に変わって出来る限りの対応をし、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍である為、現在は、地域資源の活用を行っていない部分があるが、コロナ禍になる前は、つばき荘教養講座などの参加や、地域の理容室の活用、カトリックの方には、教会へのミサなどに参加して頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	紹介する主治医が数名おり、ご家族や利用者の意思と希望を尊重して頂ける、主治医をご紹介し、事業所、家族、かかりつけ医の関係を築けるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などにて、看護師との医療的な部分の情報の共有を行っており、医学的な部分は、看護師との、相談により支援を行っている。医者の方には看護師も一緒に往診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ソーシャルワーカー、看護師との情報交換や、週一回の面会やリハビリの様子を見学に行ったりし、早期に退院に向けての相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習については、全スタッフが講習を受けており、救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認出来る場所に配置してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、公民館への誘導を行う事も、年間2回の避難訓練を通して、スタッフ全員に知らせている。月一回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳を持ち、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない、言葉かけを行っている。トイレのバット類の収納は、プライバシーを損なわない様、名前をそのまま書かず、イニシャルで書き、誰のバットかわかるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも利用者の思いや希望を聞くようにしている、。選択してもらえるような、働きかけをしている。本人の思いや希望を言い表せない利用者様には、センター方式のD4シートを活用し、本人様の訴えを行動や動きなどで考え、支援できるよう心掛		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間の時間の中で、希望に沿ってのケアプランを作っている。利用者一人ひとりのペースに合わせて過して頂けるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回～2か月に1回、訪問美容室に来て頂き、ヘアカラーやその人らしいおしゃれを支援している。洋服を選ぶ際も、ご自分で選ぶことができる利用者様には、一緒に服を選んで頂くなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備ができる利用者様には、もやしの根とりなどを行って頂いている。スタッフと一緒に下膳など出来る事はして頂いている。ご本人が苦手な食事が献立に入ってる場合は、個別でお好きな食べ物にメニューを変更し、食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、一日を通して、確保できるようにしている。一人一人の状態に合わせるため、トロミ、刻み色、お粥、ミキサー食、ムース食を提供している。在宅で毎日食べられていた食べ物なども、個別で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは声掛けにて、行って頂いています。変化があった場合は、歯科医に、往診してもらったり、家族の方にて、かかりつけ医に受診に行かれています。口腔ケア研修もインターネットでの研修を行っている、施設での勉強会も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事により、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が増えるよう排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量にも気をつけて、食物繊維を多く含む献立を考えたり、毎日の体操で腹筋を使う工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度の入浴を行っているが、毎日入浴をされたい方は、毎日入られたり、午前中、午後、希望に応じて対応し、個々にそった支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、自由に居室でくつろいで頂いたり、消灯時間は、以前の生活と変わらない様に利用者が決めている。日中から安心して、落ち着いた生活をして頂き、そのまま夜につなげ安眠して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋により、名前、目的、副作用をいつでも確認できる場所に保管しているので、必ず確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に応じて役割を持って頂き、生活歴や現在できることから楽しみ事を探し、気分転換を図ってもらえるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの流行により、外出ができない日々が続いている為、ベランダでの食事を行い、外の空気や景色を見て楽しみながら、食事を行って頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が電話をしたいとの訴えがあれば、御家族等に電話を掛けて頂いている。手紙も本人様のご希望があれば、ご家族やご本人に書いて頂き、手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花を玄関先に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方ご利用者同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。なるだけ、席替えを行わないようにして、自分のなじみの場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事と出来ないことを評価して、できる部分はご自分で行って頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、生活して頂いている。		